

青梅ガス環境報告書 2019

ENVIRONMENTAL REPORT 2019





概要

■ 会社概要

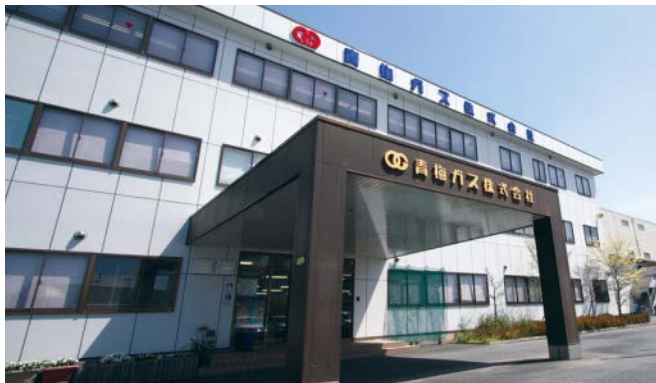
所在地 [本社] 東京都青梅市新町8丁目8番地の13
 [事業所] 東京都青梅市末広町2丁目10番地
 設立 1960年(昭和35年)
 資本金 45,000,000円
 事業内容 1. 都市ガス・簡易ガス供給、販売
 2. 電力の販売
 3. CNGスタンド及びLPGスタンドの管理
 4. ガス機器の販売及び設置
 5. ガス配管工事の設計・施工及び施工管理
 供給区域 青梅市内及び近隣市町村
 従業員数 66名

■ 対象域間

2019年1月～2019年12月

■ 対象範囲

本社・事業所・付臭施設及び供給設備



■ 都市ガス供給範囲



東京都青梅市のうち

天ヶ瀬町／今井2・3・5丁目／今寺1・4・5丁目／裏宿町
 大柳町／勝沼1～3丁目／河辺町1～10丁目／上町
 塩船／新町1～9丁目／末広町1・2丁目／住江町
 滝ノ上町／大門1～3丁目／千ヶ瀬町1～6丁目／仲町
 長淵4・7丁目／西分町1～3丁目／根ヶ布1丁目
 野上町1～4丁目／東青梅1～6丁目／吹上／藤橋3丁目
 本町／森下町／師岡町1～4丁目



■ 都市ガス業種別販売量

家庭用	37.0%	6,482,607m ³
商業用	7.5%	1,311,938m ³
工業用	38.1%	6,682,484m ³
その他	17.4%	3,060,668m ³

■ メーター取付件数

家庭用	95.3%	21,145件
商業用	2.9%	644件
工業用	0.3%	76件
その他	1.5%	324件

合計 22,189件



環境理念

■ 環境理念

青梅ガス株式会社は、資源とエネルギーの有効的活用を図り、公益事業者として環境関連法令及び「東京都・青梅市環境基本条例」を遵守し、自然環境に恵まれた街との調和を図り、豊かで安全な地域社会の実現に貢献します。

併せて、我々は企業活動を通じて、地域と地球環境保全に深く関わっていることを認識し、環境に優しい天然ガスの安全で安定した供給を行い、且つ資源とエネルギーの効率的利用を推進することにより、地域社会の発展に貢献します。

■ 環境方針

当社は、以下の事項を「環境方針」と定め、環境保全の推進に貢献します。

1. 環境負荷の低減・温室効果ガス排出削減及びエネルギーベストミックスによる省エネ・節電への取組み

- (1) 環境にやさしい天然ガスの普及促進を図ります。
- (2) 低環境負荷型機器の普及に努め、効率的なエネルギー使用を推進します。
- (3) 社内活動全般について、省資源、省エネ活動を展開し環境保全を推進します。
- (4) 企業活動に伴い発生する廃棄物の抑制及び再利用、再資源化に取組みます。
- (5) 省エネ・節電対策について、地域社会への情報提供及び啓蒙活動を推進します。
- (6) 業務効率化を図り生産性の向上に努め、環境負荷の低減に努めます。

2. 環境マネジメントシステムに基づく取組み

- (1) 環境マネジメントシステムを確立し、継続的な改善活動を行うことにより、汚染の予防及び環境保護を推進します。
- (2) 方針に基づき環境目的及び環境目標を設定し、定期的見直しを行います。
- (3) 環境パフォーマンスの向上の為、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。

3. 法令等の遵守

環境関連法令及び当社が同意する日本ガス協会等の関係組織によるその他の要求事項を遵守します。

4. 地域環境活動への参画

地域環境活動へ積極的に参画し、快適な社会の実現に貢献します。

この環境方針は、全従業員に周知すると共に一般に公開します。

■ 中期計画(2017～2019)

◎ 企画部

業務の見直し、および、改善による効率化

◎ 業務部

検針区域見直しによる業務の効率化500件以上変更
重複入金削減2017年比122件以上削減

◎ コーポレートソリューション部

- (1) 天然ガス普及拡大の促進(家庭向けの普及率アップ)
本管布設区域内の世帯に対して新規需要家(新設)の獲得
- (2) 高圧、業務用小売電気事業の営業提案活動
- (3) 業務用、産業用向けガス拡販営業提案活動

◎ リビングパートナー部

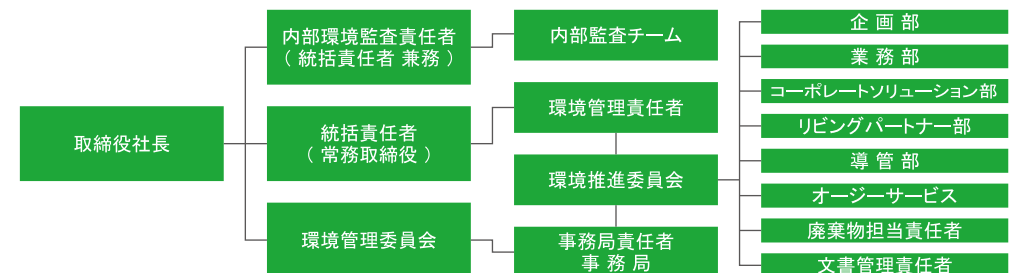
- (1) 青梅ガスグループ需要家のうち、10%の契約に向けての電力小売り事業の展開(1,500件)
- (2) 家庭向けの普及率75%以上への挑戦(第3の熱変)
普及率アップに向けての転換獲得215件
- (3) 家庭のコンシェルジュの育成

◎ 導管部

導管グループ：中間圧導管の中圧B化計画(末広事業所より市立総合病院)

保安グループ：ガス漏れ通報案件対応及びフォロー対応検討

■ 取組体制





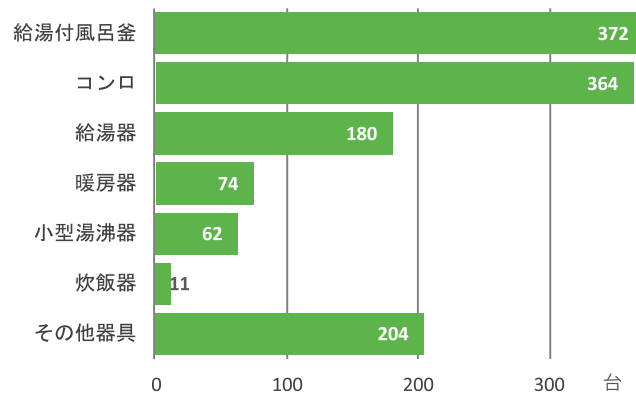
環境活動報告

■ 環境負荷の低減

1. 環境にやさしい天然ガスの普及促進を図ります。燃焼時に二酸化炭素(CO₂)の発生量が石油や石炭に比べ少なく、硫黄酸化物(SO_x)を含まない天然ガスの普及促進を図ることにより、地球環境保全に貢献しています。
2. 省エネルギー型ガス機器の普及推進に努めます。自宅で発電し、その際に生じた熱を給湯や暖房に利用する家庭用ガスコージェネレーションシステム「エネファーム」の販売も行っています。さらに、エネファームやエコジョーズ(高効率給湯機器)と太陽光発電システムを組み合わせ、ご提案することで更なる快適エコ生活をご支援して参ります。ひとつのエネルギーに依存せず、いろいろなエネルギーの特性を活かして効率的に利用するエネルギーベストミックスで暮らしとエネルギーのより良い関係をご提供いたします。
3. 省資源、省エネ活動を展開し環境保全を推進します。青梅ガスでは地域を電力不足から守るというミッションのもと、2012年に社屋に太陽光発電を設置。2014年にはさらに太陽光発電の増設を行い、社屋で使用している空調ガスヒートポンプ(GHP)も太陽光発電した電力を使用できるように仕様を変更致しました。太陽光発電により社屋の総消費量の約8.2%をまかなっています。
4. 廃棄物の抑制及び再利用、再資源化に取り組めます。社内では会議等でのペーパーレス化を推進し、廃棄物の抑制に努めるとともに、発生した廃棄物の分別にも力を入れ、資源として排出できるよう努めております。
5. 社内全体での二酸化炭素排出量削減に取り組めます。社内業務活動において、廃棄物分別促進による排出量低減・水道やガスの使用を抑制・離席時の照明の消灯・社用車のアイドリングストップ推進等によりCO₂の排出量を抑えるよう取り組んでいます。

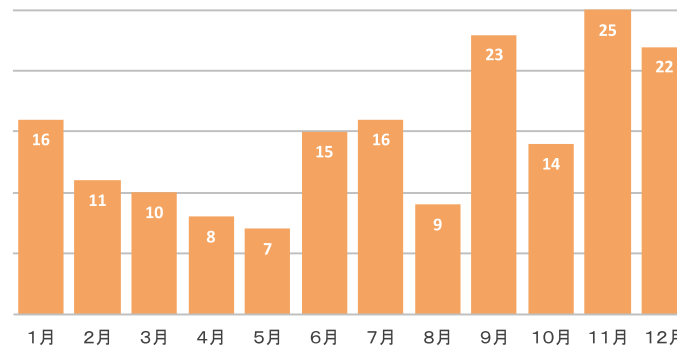
※「エネファーム」は、登録商標です。 ※「エコジョーズ」は登録商標です。

■ 省エネ型ガス機器販売台数



■ エコジョーズ販売台数

合計176台 (14, 910kg-CO₂削減)



■ エコ・ステーション

天然ガスは、自動車の燃料としても使われています。天然ガス自動車(NGV)は、ガソリン車と比較して約20~30%のCO₂排出量低減が可能とされております。青梅ガスは、天然ガス自動車(NGV)の燃料となる圧縮天然ガス(CNG)を充填する「天然ガス・エコステーション」を有し、都市ガスとして供給している天然ガスをコンプレッサーで圧縮しNGVに搭載された燃料タンクへわずか数分で充填しています。



※2003年10月のCNGスタンド開設以来、環境に優しい自動車燃料として皆様にご愛顧頂いておりましたが、諸般の事情により2019年6月末日をもって一般営業を終了し、一部契約車両の入替完了を待ち、11月をもって営業を完全終了いたしました。

	契約台数	利用車輛数	充填台数	充填量(m ³ N)
1月	220 (7)	63 (7)	512 (16)	11,834.7(178.9)
2月	216 (7)	53 (7)	410 (22)	9,232.6(244.4)
3月	212 (7)	53 (7)	462 (17)	10,597.9(187.5)
4月	208 (7)	46 (7)	420 (22)	9,335.2(238.2)
5月	204 (6)	55 (6)	405 (18)	8,858.5(175.9)
6月	200 (6)	38 (6)	315 (23)	6,585.9(205.2)
7月	10 (3)	10 (3)	33 (13)	436.4(129.3)
8月	10 (3)	5 (3)	23 (16)	290.5(162.7)
9月	5 (3)	5 (3)	22 (14)	286.3(136.0)
10月	4 (2)	4 (2)	15 (8)	213.9(74.0)
11月	3 (2)	3 (2)	15 (10)	177.5(77.3)
12月	—	—	—	—

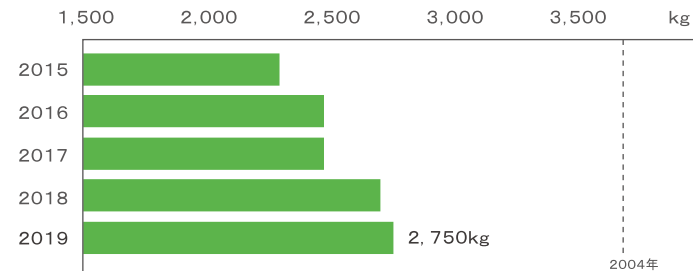
()内数値は自社車輛分



環境活動報告

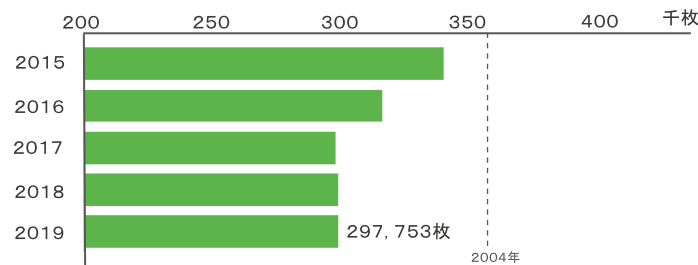
■ 廃棄物年間排出量の推移

本年は、削減開始時の2004年に比べ、27.4%削減した結果となりました。今後も排出量削減に努めます。



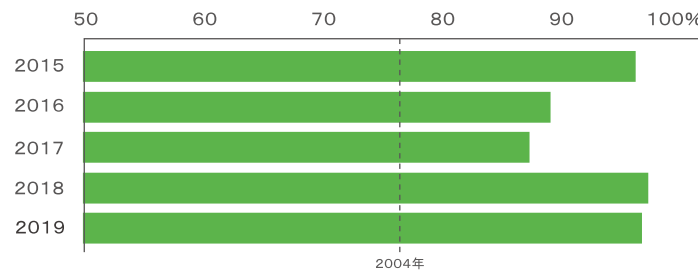
■ 紙の購入量の推移

本年は、削減開始時の2004年度に比べ、16.7%削減した結果となりました。今後も引き続き書類のデータ化等を推進し削減に努めます。



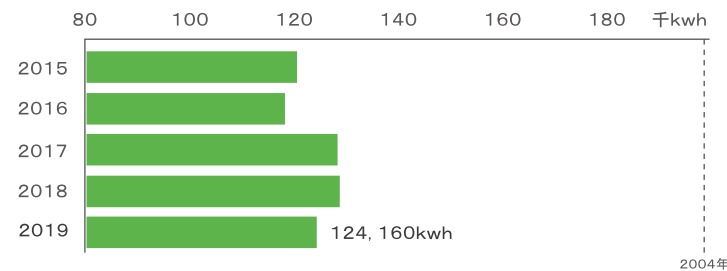
■ グリーン購入率の推移

購入時に対象商品の見直しを行い、グリーン購入率は96.6%となりました。今後も随時見直しを行いグリーン購入推進に努めます。

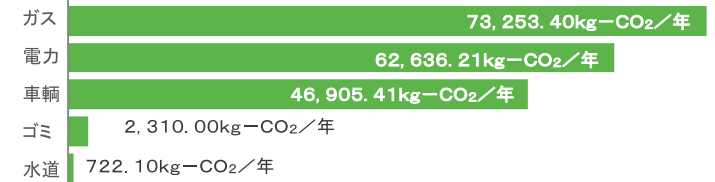


■ 電気使用量の推移

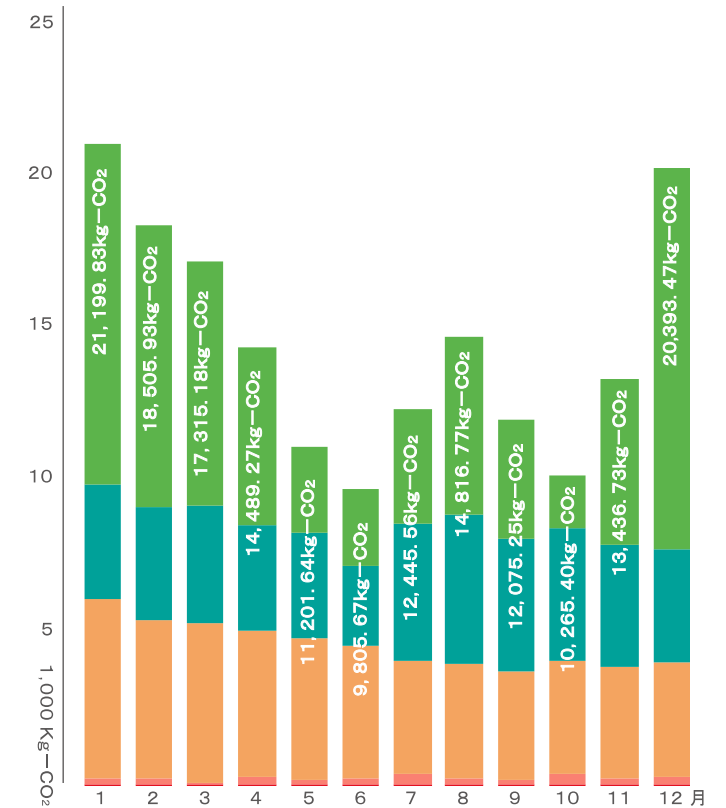
本年は、2004年に比べ37.4%削減となりました。社屋に設置した太陽光発電システムにより、自然エネルギーを利用した削減効果が表れています。



■ 二酸化炭素排出量(項目別)



■ 二酸化炭素排出量(月別)





地域環境活動への参画

■ 事業所近隣の清掃活動

毎月1回、本社および末広事業所近隣の路上清掃活動を実施しています。この活動を通じて各社員の環境に対する意識向上を図るとともに、この活動が将来的に近隣の皆様との環境コミュニティとして成長することを期待し活動しています。



■ みどりのカーテンコンテスト

青梅市・JA西東京との共催で「みどりのカーテン」の育成内容を競うコンテストを毎年開催しています。また、青梅ガスの社屋においても、朝顔による「みどりのカーテン」を実施。「みどりのカーテン」は夏の日射しを遮り周辺気温を下げる効果があり、夏期の節電を地域一体となって推進していきたいと思っています。





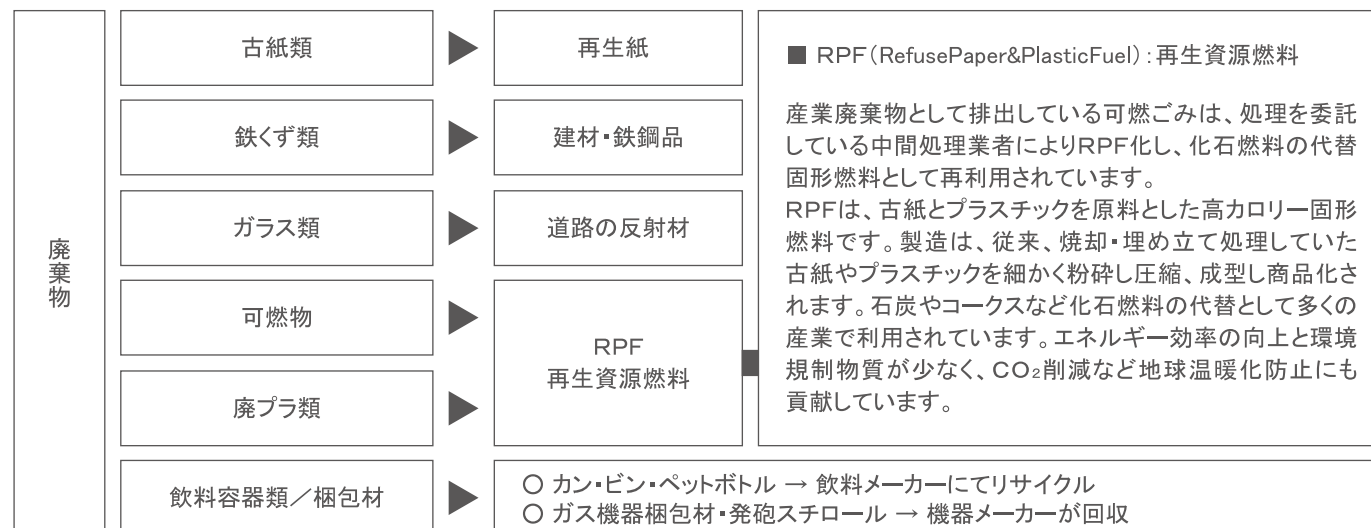
廃棄物処理

■ ガス工事産業廃棄物発生量

	廃棄物発生量 (m ³)	新設管1m当り (m ³)
アスファルト	602.54	0.15
コンクリート	72.04	0.02
残土	2,663.27	0.67

新設管		撤去管	
PE200A	212.4m	PE100A	18.5m
PE150A	2,470.2m	PE 75A	21.5m
PE100A	244.5m	PE 50A	9.7m
PE75A	133.1m	PE 30A	46.2m
PE50A	260.5m	KPW200A	180.9m
KPW150A	673.9m	KPW150A	37.0
KPW200A	3.8m	KPW100A	41.4m
KPW300A	4.7m	KPW300A	4.5m
		VP 50A	40.9m
		TM 200A	2.9m
		KPM80A	10.0m
		KPM50A	5.7m
		KPW80A	2.6m
		KSN50A	2.1m
		KFW150A	1,134.5m
		KFW100A	19.9m
合計(A) 4,003.1m		合計	1,578.3m
発生土処分費			9,494,980円
アスファルト処分費			1,292,754円
発生材処分費			998,688円
合計(B)			11,786,422円
処分費／本管敷設(B)÷(A)			2,944円／m

■ 廃棄物のリサイクル





環境保全効果

環境保全効果項目			単位	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	環境保全効果
自社業務	公害防止効果	本社・末広事業所 Nox排出原単位 (都市ガス販売時に排出するNOx量)	mg-Nox/m ³	0.08	0.09	0.09	0.37	0.36	前年比 ▲0.1mg-Nox/m ³
	地球環境 保全効果	本社・末広事業所 CO ₂ 排出量 (電気・ガス・水道・車両・廃棄物)	kg-CO ₂	186,770.0	187,664.80	177,111.30	203,435.90	175,950.71	前年比 ▲27,485.19 kg-CO ₂
		本社・末広事業所 CO ₂ 排出原単位 (都市ガス販売時に排出するCO ₂ 量)	g-CO ₂ /m ³	9.6	9.7	9.48	11.5	10.2	前年比 ▲1.3g-CO ₂ /m ³
		業務活動における 車両使用時のCO ₂ 排出量	kg-CO ₂	12,377.30	13,238.08	12,741.70	48,582.24	46,905.40	前年比 ▲1,676.84kg-CO ₂
		業務活動における 車両使用時のNOx排出量	kg-Nox	1.73	1.84	1.71	6.51	6.15	前年比 ▲0.36kg-Nox 2017年まではNOx規制対象外の軽自動車を含まない数値であったが、20018年より軽自動車の数値も含めて算出する。
	資源循環効果	業務活動において排出される 可燃ごみ排出量 ※RPFにより再利用されています。	kg-CO ₂	2,290	2,470	2,470	2,700	2,750	前年比 50 kg 増加
需要家先	需要家先での 環境保全効果	省エネ機器の拡販による CO ₂ 排出抑制量	kg-CO ₂	16,740	15,675	14,970	15,105	14,910	省エネ機器への取替推進による CO ₂ 削減量
		他燃料からの転換による CO ₂ 排出抑制量 (一般家庭)	kg-CO ₂	7,414.9	7,859.7	3,892.3	12,870.9	2,519.4	都市ガスへの転換によるCO ₂ 削減量
		他燃料からの転換による CO ₂ 排出抑制量 (法人)	kg-CO ₂	-	-	-	-	-	LPガスへの燃料転換による効果 ※本年度は天然ガス普及に努めた結果 実績無し
		他燃料からの転換による CO ₂ 排出抑制量 (法人)	kg-CO ₂	34,110	50,464	65,607	-	32,101	都市ガスへの燃料転換による効果
自社業務	廃棄物削減による 経費削減額	廃棄物排出量抑制による 経費削減	円	¥206,200	¥246,000	¥247,000	¥270,200	¥275,000	前年比 4,800円 増加
	掘削発生土の 外部排出量削減による 経費削減額	浅層埋設 掘削幅縮小工法の実施 (1m当たりの掘削土処分費)	円 (円/m)	¥6,447,625 (¥1,634/m)	¥8,270,710 (¥2,838/m)	¥9,095,325 (¥2,167/m)	¥11,988,457 (¥4,005/m)	¥11,786,422 (¥2,944/m)	前年比 ▲1,061円/m

【環境保全効果の算定について】

- 一般家庭における効果算出は、4人家族で風呂に200L湯張り、シャワー、洗面、炊事にお湯を使用した場合を想定しています。
(株式会社ノーリツの給湯機器カタログにおける試算条件より)
- CO₂排出係数は、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」による係数を使用しています。
- 機器の熱効率率は、株式会社ノーリツのカタログに従います。
- 灯油給湯器熱効率率は、製造後10年の機器効率率を使用しています。

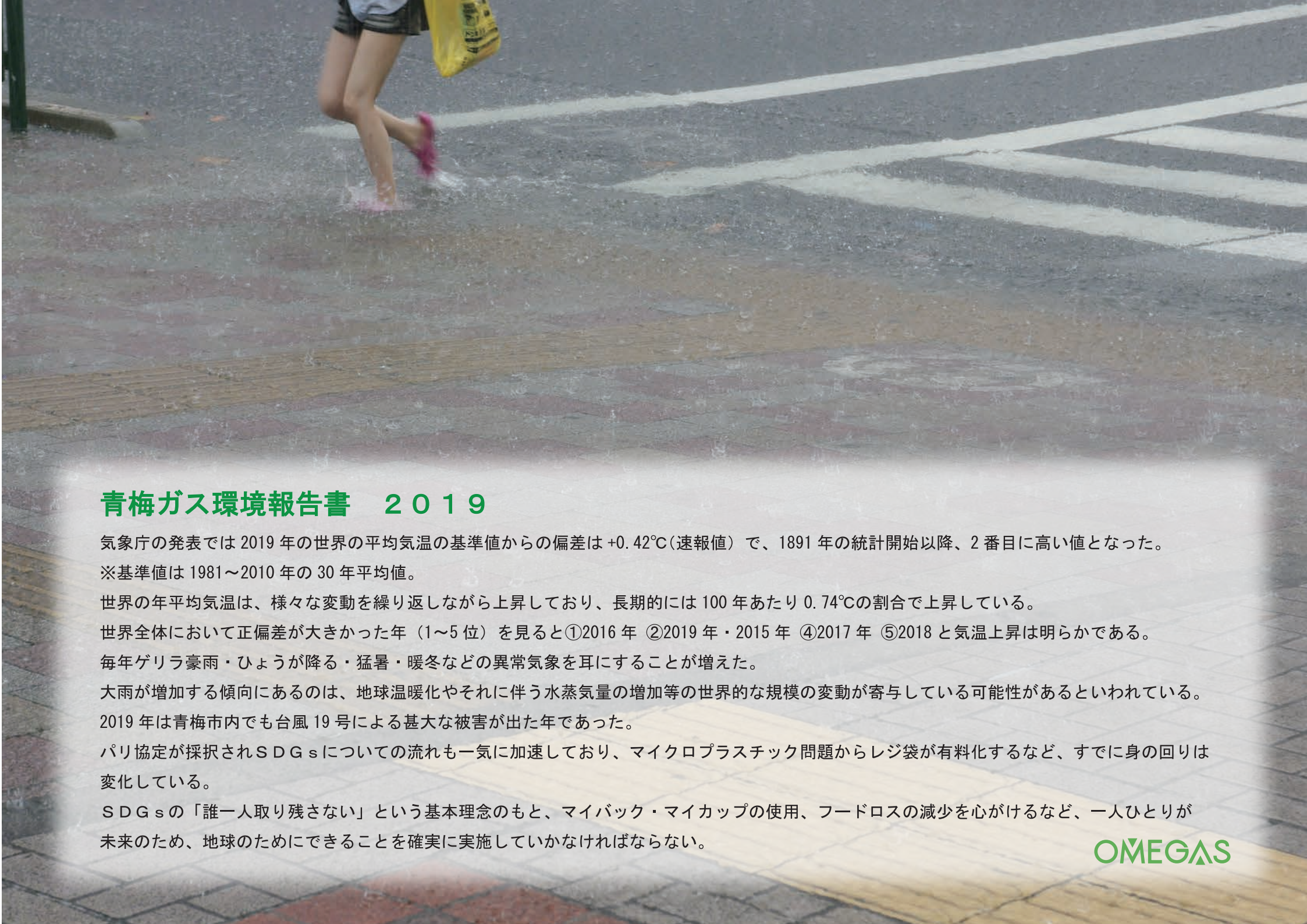
●2019年のCO₂の排出削減量を杉の木の吸収量に換算すると！？

当社の主な事業活動において削減できたCO₂の量は[78,692kg-CO₂]となりました。
この削減効果は、杉の木[32,789本]に相当します。[78,692kg]÷[2.4kg]※≒[32,789本]
そして[32,789本]の杉林の面積を例えると、およそドーム球場[7個分]に相当する広さです。

※参考：林野庁



フリーカットさんによるイラスト AG からのイラスト



青梅ガス環境報告書 2019

気象庁の発表では2019年の世界の平均気温の基準値からの偏差は $+0.42^{\circ}\text{C}$ (速報値)で、1891年の統計開始以降、2番目に高い値となった。

※基準値は1981~2010年の30年平均値。

世界の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、長期的には100年あたり 0.74°C の割合で上昇している。

世界全体において正偏差が大きかった年(1~5位)を見ると①2016年 ②2019年・2015年 ④2017年 ⑤2018と気温上昇は明らかである。

毎年ゲリラ豪雨・ひょうが降る・猛暑・暖冬などの異常気象を耳にすることが増えた。

大雨が増加する傾向にあるのは、地球温暖化やそれに伴う水蒸気量の増加等の世界的な規模の変動が寄与している可能性があるといわれている。

2019年は青梅市内でも台風19号による甚大な被害が出た年であった。

パリ協定が採択されSDGsについての流れも一気に加速しており、マイクロプラスチック問題からレジ袋が有料化するなど、すでに身の回りは変化している。

SDGsの「誰一人取り残さない」という基本理念のもと、マイバック・マイカップの使用、フードロスの減少を心がけるなど、一人ひとりが未来のため、地球のためにできることを確実に実施していかなければならない。